

検査値の生理的変動

血液検査には生理的な要因によって検査値が変動する検査項目があります。その主な検査項目をご紹介します。

変動する要因：人種、性別、年齢、生活環境、生活習慣のちがいで

性差による影響

男性 > 女性（骨格筋肉量を反映し、男性は女性のおよそ1.2倍）

クレアチニン、クレアチンキナーゼ

女性 > 男性（男性の肥満率と喫煙率が高いことと女性ホルモン：エストロゲンによる影響）

HDL-コレステロール

女性の生理的鉄欠乏による影響

血清鉄（Fe）

閉経後の女性ホルモンによる影響

アルカリフォスファターゼ（ALP）、LD、総コレステロール、コリンエステラーゼ、尿酸

加齢による影響（加齢にともなう腎機能の低下による影響）

クレアチニン、尿素窒素

飲酒、過食傾向による影響

γGT、中性脂肪、尿酸、ALT（GPT）

食事による影響（食後に上昇）

血糖、中性脂肪、アルカリフォスファターゼ（ALP）

運動による影響（強い運動負荷で上昇）

クレアチンキナーゼ、AST（GOT）、LD

日内変動（午前中に高く、午後に低くなる）

血清鉄、総ビリルビン

立位、座位により上昇

（血液が下肢に溜まることで水分などが血管外に漏れ出し、血液が濃縮されることで上昇する）

総蛋白、アルブミン、コリンエステラーゼ、LD、総コレステロール、血清鉄